

苫小牧工業高等専門学校卒業生「還暦のお祝い会」を開催しました

今年は、昭和52年3月に苫小牧高専を卒業した私たちが、還暦を迎えることから10月15日(土)、ホテルノースシティ札幌において「還暦のお祝い会」を開催しました。

笑いあり、涙あり、ハプニングありの素敵な会でしたよ。

参加者は42名、お祝い会に先立ち、ホテル内の写場にて記念撮影を行いました。ここでハプニングが発生。「二人来ていないぞ!」「誰か電話しろよ(怒り)」すると、一人は渋滞で遅れている。一人は札幌ドームで野球観戦中... とのことです。時間に余裕を持って来ることが社会人ですね。還暦を過ぎたオヤジの姿で〜す(笑い)。

そんなハプニングがありました。無事に記念撮影を終えました。



苫小牧高専卒業生 還暦のお祝い会 記念撮影



苫小牧工業高等専門学校卒業生

還暦のお祝い会



日時 2016年10月15日(土) 18時より

場所 ホテルノースシティ(3階 レラの間)

さあ、いよいよ「還暦のお祝い会」がスタート。

司会は、見た目も声も若々しい、学生時代はミュージシャンの齊藤和則さんです。

「昭和52年に卒業して、4科合同のお祝い会を開けた事が素晴らしい。とても仲の良い世代であることを誇らしく思います・・・」何となめらかな進行ですね。

続いて、幹事を代表して私、小山征三が挨拶しました。

「今日は、祝ってくれる人は誰も来ていません。祝ってもらう人ばかりですが、オリンピックのアスリートは言っています。これまでの自分自身の努力を褒めてやりたい。是非、皆さんも60年の人生を自分自身で褒める会にしましょう・・・」と話して、笑いを取ったつもりです。



祝杯は、幹事の藤田俊一さんです。藤田さんは、学生時代にサッカー部のセンターFWでしたが、今日は完敗（乾杯）からスタートです。

祝宴が始まりました。会場内で交わす言葉は、「久しぶり」と言いながら、後から「誰？」と聞いている始末。さらに会話の視線の先は、何故か頭の方ばかり。CMでお馴染みの「かつての乙女が、今は太目」という女性はいませんが、男性には、たくさんいましたね。

40年間、全く会っていなくて、昔話に思わず涙。「60歳になると涙腺が緩んでいるよ」と誰かが言うと、間髪入れずに「緩んでいるのは他にもあるんじゃない・・・」と笑いを誘っていた住岡弘さん。相変わらずキレが良いのか、悪いのか。



「誰だ！先生を呼んだのは？」「先生でないぞ、ゴルバチョフだよ」と言われていた八木孝史（青島）さん。怒る顔が、本当に似ていますよね～え。

「俺は、みんなといると楽しい。これから倍は生きるぞ！」と120歳宣言の松村忠至さん。元気ですね～。



「今日は、東京から新幹線で8時間かけて来ました」と言っていたのが、朝野英一さんと野崎眞司さん。お疲れ様で～す。



写真撮影は内海義嗣さん

ここで、全員を紹介出来ませんので、テーブル毎に載せました。





バックを片手に登場したのは井上晴男さん「今日は遅れてゴメン。日本ハム VS ソフトバンクの試合を応援してきました」と言いながらバックからは、ソフトバンクのユニホーム、これには会場からブーイングの嵐が吹きました。

母校の近況を報告したのは、栗山昌樹教授です。「40年経つと学科は新設や改組があり、今では1年生が混合学級となりました」と説明しましたが、会場内は???です。

奥さんと同伴で東京から参加してくれたのは専門学校の校長をしている佐藤康夫さんです。2次会には、奥さんも参加してくれました。



会場内は、あちこちにぎやかに歓談が進みました。短時間ですが、40年の空白を埋めることが出来たでしょうか。

そんな楽しい時間もあっという間に過ぎていきました。「今度は、いつやる」「5年後に年金受給を祝う会でどうか」「それなら毎年やろう！」等々、話は尽きません。同級生の団結を感じる事が出来ました。



校歌は、林浩史さんの応援団エールで斉唱しましたが、どことなく遅れてきた謝罪にも見えてきます。

締めは、「電気工学科の参加が少なくてすみません。次は、たくさん集めます」と茨城県

から参加した幹事の酒谷秀俊さんが、皆さんのご健勝とご多幸を祈念して万歳三唱で閉会となりました。

節目の還暦を祝う会でしたが、まだまだ皆さん元気！

今後もこの素晴らしい同窓生の親睦の場が、ますます盛会となりますことを祈念し、「還暦のお祝い会」の報告とします。

- 幹事 小 山 征 三
- // 齊 藤 和 則
- // 藤 田 俊 一
- // 酒 谷 秀 俊

